



ふる ばやし

京都府議会議員

vol. 10 2023.03

古林よしたか 府議会報告

ずっと住み続けられる まちへ

京田辺市 井手町
宇治田原町



【発行】古林よしたか 〒610-0334 京田辺市田辺中央3丁目3-1プレステージ壱番館106号 TEL.0774-64-7078

furubayashi-yoshitaka.com

緊急告知

3月2日(木)

午後2時頃から

KBS京都で生中継!



京都府議会 令和5年2月定例会

予算特別委員会 総括質疑

詳しい内容は裏面へ

ご挨拶

私は、どのような境遇の方であっても、将来に不安なく、安心して豊かに暮らせる地域を実現させたいと考えており、今回の質問を行います。

質問 1

質問の背景

ひきこもりの状態にある方への支援について

京都府における、ひきこもりの状態にある方は、約2万3千人おられると推計されています。「ひきこもり」は、1つの原因だけでなく、その多くは様々な要因が複雑に絡み合って生じると言われております。

「ひきこもり」の改善に向け、押さえておかなければならないのは、ひきこもりの方は、急げていたり、甘えている訳ではないということです。むしろ「何とか改善したい」と強く思っておられますが、様々な要因により、社会に出る気力を保つことができない状態にあります。これは非常に辛く苦しい状態です。

さらに、「ひきこもり」は、家族にとっても大変辛い状態です。本人も家族も、どうして良いのかわからず、試行錯誤を繰り返した末に、家族関係が行き詰まってしまふこともあります。表立って相談しにくいことも踏まえ、家族全体を支える、第三者の支援が非常に重要になるため、今回の質問を行います。

質問 2

今後の農福連携等の推進について

例えば、「美しい景観の散策路の中に、農作物が育てられている。その農作物を使ったメニューが、公園の中にあるカフェやレストランで提供されている。地域の方々も公園に出入りをされる中で、障害者の方々がいきいきと働かれ、学校に行きづらい方やひきこもり等の状態にある方などの居場所にもなっている。こうした取り組みに惹かれて、地域の方々だけでなく、支援学校の修学旅行など、全国から人が集まり、地元の観光地にも足を運んでもらい、産業振興にも繋がる。生きづらいと感じる方も一緒に、地域を支えている実感を持つことができ、生きがいを感じることができる。」

私はこうした美しい循環が形成された、生きづらいと感じた時に必要な支援にたどり着ききっかけを「見える化」された、優しく温かい公園が身近にあれば、誰にとっても住みやすいまちになるのではないかと考え、今回の質問を行います。



古林よしたか 事務所のご案内

〒610-0334 京田辺市田辺中央3丁目3-1
プレステージ壱番館106号

TEL.0774-64-7078 FAX.0774-64-7079

✉ furubayashi.yoshitaka@gmail.com



ホームページ



facebook



twitter

<https://furubayashi-yoshitaka.com/>

古林よしたか

検索



質問 1 ひきこもりの状態にある方への支援について

- 1 まずは、脱ひきこもり支援センターを中心とする、健康福祉部の取組について伺う。ひきこもりの状態にあり苦しんでいる方の把握が非常に困難な中、何とか支援の手が届くよう、民間の力も借りながら、多様な支援のきっかけづくりにご尽力いただいているが、どのような工夫のもとで支援の充実を図ってこられたのか、その取組の内容と、現在の課題認識、課題を踏まえた今後の取組の展開は？
- 2 ひきこもりの改善には、早期の支援が非常に重要。不登校を原因とする場合が最も多いことから、在学中の改善が望ましいと考えるが、教育庁は、ひきこもりの状態等、思うように学校に通えない子どもやご家族に対して、どのような課題認識のもとで学校や社会との接点づくりや、居場所づくり等の支援を行っているのか。そして、早期改善のためには、教育庁と健康福祉部との連携は非常に重要だと考えるが、どのように連携を深めていかれるのか？



- 3 おもに就職氷河期世代のうち、ひきこもりの状態にある方や、無業の状態にある方などを対象に、状況に応じたサービスやサポートを提供されている「Lコネクト」は、来られた方を断らない方針のもと、例えば、福祉的なサポートが必要と思われる方の福祉部局へのつなぎなど、他部局とも連携しながら、なるべく相談のハードルを下げることを意識して、多様な支援を行われている。オンラインによる問い合わせが多いことから、匿名で参加できるチャットツールを活用した支援にも力を入れておられるが、これまでどのような工夫のもとで支援の充実を図ってこられたのか、その取組の内容と、現在の課題認識、課題を踏まえた今後の取組の展開は？
- 4 オンラインを上手く活用すれば、ひきこもり状態にある方等への支援をさらに充実させることができるため、Lコネクトのみならず、脱ひきこもり支援センターにおいても、令和4年度から「オンライン居場所」という支援を開始されている。オンラインによる支援や日々の情報交換等、健康福祉部と商工労働観光部、そして教育庁も含め、さらなる連携を図ることは、支援の質をさらに高める上で、非常に重要だと考えるが、今後の連携のあり方について具体例を交えながら、伺いたい。

質問 2 今後の農福連携等の推進について



- 1 農業分野と福祉分野の諸課題を解決しながら、障害者と農業者、双方にメリットがある農福連携等の取組を、より一層府内に広く展開することは、非常に有意義だと考えるが、西脇知事の農福連携等に対する認識と、今後の取組強化について伺いたい。
- 2 単に農業と障害者福祉だけにとどまらず、ひきこもり等の状態にある方をはじめとする、社会的に生きづらさを感じておられる方々を幅広く受け入れる支援の場

を、公園の活用も含め、地域で足を運びやすい場所に作っていくことが重要だと考えるが、どうか？

- 3 さらに、こうした誰もが足を運びやすい場を、府内各地域にもつことができれば、知事の掲げる「温かい京都づくり」「だれもが夢や希望を実現できる京都府」に、また1歩近づくことができるのではないかと考えるが、知事の考えは？



京都府議会議員 古林よしたか 代表質問

ぜひ、
ご視聴ください。

3月2日(木) 午後2時頃から

